

マイトーク MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／藤原尚武）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成14年4月1日

第7号

水上会長追悼記念号

水上虎馬雄会長ご夫妻は、去る、平成12年9月相次いで永眠されました。謹んでご冥福をお祈りします。



在りし日の水上ご夫妻（平成11年7月・駿河台記念館）

水上会長の追悼式

6期 佐久間良平

平成十三年七月三十一日は、連日猛暑続きの中、ちよっぴり気を利かせてくれたのか、都内の最高気温は、二十九・六度と実にラッキーでした。

第一ホテル東京、ラ・ローズの間にて、総会に引き続き

『水上会長追悼式』が挙行された。

まず、全員で、にこやかな水上ご夫妻の遺花した。

出席者は、OB・現役合わせて百五十名余、進行役は5期の斎藤進先輩。厳粛、荘重、しっとりした口調で式の開始を告げ、追悼の音が上映された。

生前の思い出の映像が、大画面に映り、控音楽が一層故人の人柄の大きさを浮かびだした。

お別れの言葉を新会長が、『フック、ていたようだ・・・』などと思いつくと、気持ちこめて述べた。

加賀美鐵雄顧問は水上会長との付き合い放研との繋がりなどを語った。

2期の桃川先輩は長年の交際と発病、経過を述べ故人をしんみりと偲んだ。

ご遺族を代表して、水上浩氏が挨拶、ほぼ同じくして両親を失った寂寥が出員の胸に響いた。そして悲しみを堪えを述べた。

懇親会は、13期の和装の前田紘子さ行役で、1期の清田義雄先輩が水上会悼し献杯した。

しばし歓談してから新役員が登場し、ビデオを作成した現役が拍手で紹介、歓談の合間に7期の立崎氏がいつもに記念撮影を行った。

やがて万感の思いで「惜別の唄」をた。近内紀久子副会長の挨拶でお開きした。

春風のよゆな水上さん

5期 岡村参次

ほのぼのとした春風が吹き、桜がほころびはじめると、水上さんから電話がかかってくるような気がしてならない。「参ちゃん、日立でまたゴルフやろうよ」と。

思い起こすと五年前、日立ゴルフクラブと一緒にプレーを楽しんだことがまざまざと蘇ってくる。

放研の記念パーティなどで水上さんと杯を交わしながらゴルフ談義になる度に「そのうち一緒にやろうよ」「桜の咲くころ日立でやりませんか。桜がともきれいなコースがあるんです」「それはいいな。僕は桜が好きで、今住んでる聖蹟桜ヶ丘を選んだんだけど、ゴルフと桜とは素晴らしい。ぜひ呼んでよ」といつもそのうちの口ばかりで約束を果せなかった。

しばらく経って平成九年四月十一日、日立で中大学員会茨城支部の総会をやることになり、幹事だった私は当時常任理事の水上さんにこの時とばかりに電話を入れた。「水上さん、総会の翌日にゴルフをしましょう。エイジシュートをやった中大の大先輩と一緒にラウンドします」ということで長いこと念願だったプレーが実現した。

当日はまさしくゴルフ日和で満開の桜に水上さんは大喜びだった。エイジシューターの関定蔵さんと、はじめてまだ二年目のピギナー妻幸子（放研5期）を入れてのスタートだ。

関さんは明治四十三年生まれとは思えないほど矍鑠（かくしゃく）としておられ、ティグラウンドに

立つとさすがシングルの風格がある。八十二歳の時クラブの正式競技会でエイジシュートを達成している。

水上さんは少し怖じけついて「関さんに負けても幸ちゃんには負けたくないな」「大丈夫よ。わたしは六十を切れないんだから」と幸子が言うと、さすが関さんが「水上さん、あなたは私より十五歳も若いんだから、負けずに頑張ってください」と云われて水上さんも緊張していた。

ここ日立ゴルフクラブは東の太平洋に向かってなだらかな傾斜地に作られたコースだが、フェアウェイは微妙なアンジュレーションがあり、グリーンは海に向かって早く、初めてのプレーヤーにとって



エイジシューターめざして（日立ゴルフクラブで）

は難しいコースだ。

さすが手堅い水上さんもアウトは少してこずスコアは五十一だったが、昼食時、関さん一人でなくてやわらかいスイングでいいですね」とわかれて水上さんも照れていたが、自信がついたのインに入ってコースにも慣れてきて、寄せとパッが決まりだし四十三で終わった。

「参ちゃん、桜もきれいだっただけど、このコースは僕にむいてるな、またやりたいね」

八十台で回った関さんには完敗したのも、あ時の水上さんの喜色満面の喜びようは忘れられない。

このあと関先輩の週二回はコースをまわるよう努めていることや、筋肉トレーニングと食生活を切にしている話に水上さんは深く頷いて聞いてた。そのとき水上さんはきつと心のなかで自分「エイジシュートをやってみよう」と思っていた。間違い。

同年七月、放研創立四十五周年を祝うパーティで水上さんはOB会会長として「茨城の学員会のまりに行ったとき、日立カントリークラブの社長さんと八十五歳になる方とゴルフを一緒にしました。スコアも八十台でまわられ、私もこのよう方にあやかっけて長生きし、これからも放研の歩み見つめていきたいと考えています」と挨拶をされたのが印象深く心に残った。

平成十一年十一月三日、第三回放研OB会コンが浦和であり、その時、水上さんが「もっと距離出そうと新しいドライバーに変えたんだけど、腰が直らなくてダメなんだ……」とスタートしてつた後ろ姿が妙に元気がなかった。

そして同じ月の二十九日、桃川先輩にすすめられて、桜ヶ丘カントリークラブで行われた中大白門会のコンペに放研チームとして参加し、終わって桃川、坂、武居、榛葉諸先輩に藤原君が加わって、近くの水上さんの自宅にお邪魔した。

いつも笑顔を絶やさない奥様も入って、又とないほどの賑やかな打ち上げ会になった。今思うとこれも何かの因果だったのだろうか。酔うほどに、在学時代、朝まで酒を飲んで、中野に住んでおられた新婚ホヤホヤの水上さんの家に押しかけて、朝御飯をいただき一眠りさせていただいたことがありましたね……と隣の水上さんに寄りかかって言った。「そんなこともあったかね」と、そのときの水上さんの優しい顔は昔と変わらず、にこやかで春風が漂っているようだった。

昨年八月の初めはうだるような暑い日が続いた。武居先輩から「面会謝絶になっているけどお見舞いに行っておきなよ」と暗にうながされて、東京女子医大の病室を訪ねた。「水上さん、また日立でゴルフやりましょう」と言うとかすかに「ん、行こう」という言葉が最後になってしまった。

暖かい春のそよ風が吹くと水上さんを思い出してしまう。 合掌

水上さんとゴルフ

4期 武居克郎

「おい武居、こっちから順芽か、逆芽か」グリーン回りや、グリーン上での水上さんの大きな声が



最後のコンペは、水上会長優勝（2000年2月・秦野CC）

秦野でプレーする度に耳元に聞こえてくる。昨年の年賀状に『春まで待てないから有志を集めてコンペを企画しろ』で開催した十二名の有志が参加した一昨年の二月二十二日秦野でのプレーが水上さんとの最後のゴルフになってしまった。

秦野でのプレーは初めてで、しかも七十五歳の高齢にも関わらずグロス八十で優勝し、馬券も的中（二万円）、パーティー、町田での二次会（8期藤原

氏馴染みの店）とも終始ご機嫌でした。ゴルフも、酒も、そしてニコニコした水上さんもこの日が最後になってしまった。

思えば水上さんとのゴルフでの関わりも二十一年の長いお付き合いだった。簡単にその道程をたどってみよう。

- ① 一九八〇年十一月 取手国際（同伴者 川・三橋・武居）
- ② 八一年八月二・三・四日 大浅間（桃川・近藤・武居）
- ③ 八二年七月二十四・二十五日 大浅間（桃川・近藤・佐藤・武居）
- ④ 八三年五月 新千葉（三橋・藤原・武居）
- ⑤ 八六年八月 大浅間（桃川・榎崎・武居）
- ⑥ 八七年四月 府中（桃川・塩沢・武居）
- ⑦ 九〇年十月 取手国際（岡村・藤原・武居）
- ⑧ 九三年九月 箱根（桃川・坂・武居）
- ⑨ 九七年六月 桜ヶ丘（桃川・坂・武居）
- ⑩ 九七年十一月 東筑波（放研ゴルフ準備コンペ）
- ⑪ 九八年十一月 益子（放研OB会第一回コン）
- ⑫ 九九年七月 下秋間（放研OB会第二回コン）
- ⑬ 九九年十一月 浦和（放研OB会第三回コン）
- ⑭ 九九年十一月 桜ヶ丘（中大学友会コン）
- ⑮ 桃川・坂・榛葉・岡村・奥野・武居
- ⑯ 〇〇年二月 秦野（有志十二名）
- ⑰ 〇一年二月 秦野（水上さんを偲ぶコンペ・有志十七名参加）
- ⑱ 〇二年二月 秦野（水上さんを偲ぶコンペ・有志二十名参加）

箱根駅伝と水上先生

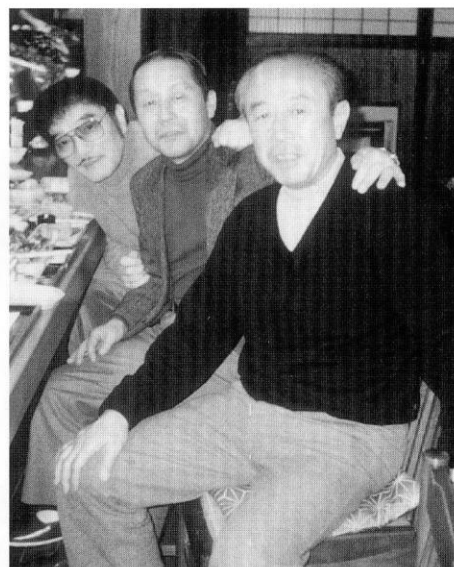
12期 斉藤安弘

平成四年、十二月一日付の辞令を持って有楽町から箱根へ移ってから九年目になる。都心から近く、緑が一杯、温泉もあるし空気も旨い。職場としては結構づくめのようなのだが、美術館の運営というのめかなり大変で、私立で、財団法人は収益をあげられず、収益部門をまかされている我々株式会社は利益追求という法人企業の宿命を背負って営業している。

彫刻の森美術館は年中無休であるから、毎年元旦も午前八時半には集合、九時に開館して来館者を迎えているが、立場上私は午前七時半過ぎにはデスクに居ることになっている。ニッポン放送で仕事をしてきた時からの習慣で、毎日欠かさずその日の出来事を大学ノートに記しているが、そのノートが昨年、平成十三年元旦から二十一冊目になった。毎年正月の二日から三日にかけては大学対抗箱根駅伝について記しているが、昨年はこんな風であった。

〔平成十三年一月三日（水） 朝から西風強し天候は昨年の一月三日とほとんど同じ。強い冬型の気圧配置となっており、関東地方は全般的には晴れだが、なぜか箱根の芦ノ湖上空だけはすっぱりと雲が掩っており強い西風が吹いている。〕

午前八時、テレビの中継で復路スタートを確認し、事務所を出て、いつも箱根駅伝を応援する箱根小涌園近くの国道一号線沿いの地点に向った。この場所は桃川先輩、水上先生ご夫妻、同期の小嶺隆海夫妻と一緒に応援するのが恒例であったが、昨年は小嶺



箱根駅伝、前夜祭は大いに盛り上がった
(箱根で)

君が東海大学伊勢原病院に入院しており、彼から預った、六年前、第七十二回大会で母校が三十八年振りに総合優勝した時の選手のサインのある白い小旗を持ち、応援に行ったが、昨年はその彼も亡く、水上先生ご夫妻も一昨年九月亡くなられ、桃川先輩を捜したが見当たらず（本当は近くにおられたそうだが）、水上先生ご夫妻、小嶺君の分も、心を込めて力いっぱい小旗を振って応援した。

復路スタートは往路劇的な優勝を果たした母校中大として八秒遅れて順天堂大がスタートした筈だが、先導車に続いて目の前をあとという間に通過していった先頭の選手は順天堂大の選手であり、その後を中大の永井選手が懸命に追うという形になっていた。

結果は優勝は順天堂大、二位駒澤大、三位中大の順であった。水上先生が駅伝の応援のため桃川先輩が所有しておられる小涌園内のマンションにいつ頃からお出になるようになったかは伺っていなかったが、神奈川大学が総合優勝、中大は往路五位、復路四位、十二年連続五位以内という結果となった平成

十年一月二日の夜には水上先生のお招きで、改築今はないが、小涌園の中の炉端焼の店で桃川先輩三人、大いに盛り上がったこともあった（勿論、二人にご馳走になったのだが…）。

ある年には奥様のご一緒のこともあった。本当は仲睦まじいご夫婦で、楽しい酒席になったことを憶している。毎年駅伝を応援するポイントには海抜五百メートルくらいあり、寒さも相当なものがある前夜、かなりお酒を飲まれた水上先生と桃川先輩、背を丸めるようにして選手の通過を待っていらつ、やる。もともと小柄な水上先生であるが、黒いオ、パーに身をつつみ、通過する選手に大きな声で声を送っていらつ、しゃつたのが印象的であった。

中大が四位の成績をおさめ、早稲田がシード権失った平成十一年、水上先生は暮の韓国出張のため、箱根にはおいでにならず、小嶺隆海夫妻と一緒に応援したのだが、これが小嶺君が箱根へ来た最後の年であり、また平成十年一月三日が水上先生が箱根へ来られた最後の年になったのである。

今年一月三日、いつもの場所へ向う私の胸中は、寥感で一杯で、こみあげてくる思いを懸命にこら、ながら応援したが、来年一月三日も今年同様、水上先生と奥様、そして小嶺君の分の思いを込め、一、懸命小旗を振るつもりである。





現役



46期～48期・現役



現役

水上会長追悼会

2001年7月31日(土曜日)
第一ホテル東京「ラ・ローズの間」



水上会長のご遺影に献花



開会前



水上会長のご長男(水上渉氏)の挨拶



藤原新会長による追悼のことはば



4期～5期



ご遺族、ご来賓、1期～3期



9期～12期



6期～8期



13期～15期



12期



23期～42期



16～20期

AGILITY

12期「沖繩」へ

—自然に生まれた食と伝統の島を訪ねて—

12期 近内紀久子

沖繩は、白い砂、エメラルドグリーン的大海と珊瑚礁そして琉球王朝から伝わるガラス工芸や織物とまさに自然と伝統文化が一体となった神秘漂う島です。数々の歴史の中で二十世紀最大の戦火に翻弄された悲しい時代があったことを後世に伝えるのも平和を願う私たちの義務でしょう。

三年前、山梨でゴルフを行った前夜「来年、沖繩で同期会をしたいという意見があるんですよ」と砂岡兄が水上先生に話すと「沖繩なら僕も行きたいね。まだ行ったことないんだ。この年まで沖繩へ行っていないのは、家内が、自分と同世代の多くが、悲惨な青春時代を送った場所へは行きたくないというので今まで実現しなかったんだが、ぜひ企画してほしいね」と大変乗り気でした。そして昨年二月沖繩旅行が実現しました。

沖繩へ行きたいと言われていた水上夫妻はすでに天国へ召され、奥様のどうしても行きたくないという思いが通ってしまったのかしら、などと考えていると、飛行機が旋回しながらエメラルドグリーン的大海の上をゆつくりと高度を下げ、それに伴ってくつきりと沖繩本島が地図のように現れはじめました。

到着ロビーで各地から集まった同期との再会は、毎年のことですが一番楽しい瞬間です。

那覇空港から珍道中の観光をしながら三時間ほどで、南国の木々に出迎えられ、万座ビーチホテルへ

到着です。万座ビーチホテルは、ぐるり海に囲まれているため、すべての部屋から海がのぞめます。日はだいたい傾きはじめていましたが、二月というのは東京の初夏を感じさせる陽気で、珊瑚礁の彼方では波が白く裂け、自然の恵みを直接肌を感じたいと、女四人、誰もいない白い砂浜に出て、その美しさと雄大な自然に溶け込んでしまいそうな錯覚をおぼえながら、空が茜色に染まりかけた夕暮れまで飽きることなく眺めていました。

琉球王朝を偲ばせる守礼の門、中に入ると暖かい鍾乳洞、各種の南国フルーツが植えられているフルーツ園、メキシコをイメージしたサポテン公園等々。このサポテン公園の案内役として酋長の人形があちこちに立っているのです。そこでの斎藤兄の記念写真のポーズには皆な爆笑です。なぜかという斎藤兄の放研時代の渾名が酋長なんです（写真参照）。ということでは早速、眼下に紺碧の海を見下ろし、緑のサポテンや南国の花に囲まれるなか、急遽、斎藤酋長の案内で園内をはしゃぎながらの散策です。

そんな楽しさも残り少なくなった最後、ガイドさんの一言が胸に迫ってきます。そう、ひめゆりの塔



酋長と紺碧の空



首里城で記念撮影する12期・14期一行

の話です。そして、サポテン公園からひめゆりの塔へ行く道、家と家の間に必ずといっていいほど同じような庭があるのです。それは庭ではなく、待てど帰らぬ主の帰りを待ちわびた家が崩れ、結果として庭となって残っているのです。戦後五十六年も経った今でもです。水上先生の奥様が「沖繩には行きたくない」と言われたのは、こういうことだったのかと、改めて戦争の悲惨さを思い知らされました。

目線を替えて遥か遠く海を眺めると、そこには世界で最も美しいといわれている、慶良間諸島があります。空はどこまでも碧、海はどこまでも蒼く澄みわたっていました。

AGILITY

現役アクティビティ

五十周年を迎えるにあたって

二〇〇二年度運営委員長 52期 清水厚志

我々、放送研究会も今年でいよいよ五十周年を迎えることになりました。偶然にもそういった節目の時期に放送研究会で青春を過ごしていることには不思議な感じがします。普段は我々現役とOBの皆さんが直接交わる機会が少ないということもあり、今回はそんな放送研究会、現役の面々がどのような活動をしているのかを少しではありますが紹介したいと思います。

現在の放送研究会は、新二年生から新四年生まで合わせて会員が七十人以上、今年入ってくる新入生をあわせると百人近くになるのではないかとこの位のマンモスサークルになっています。人数が増えたことに伴い、活動も多岐に渡るようになってきました。FMいるま(77.7Hz)の水曜夜二十三時から二十四時には、三週間に一回のペースで中大放研が制作するラジオ番組が放送されています。また中大広報課と提携して、多摩キャンパス内の電子掲示板に放研が制



現役・OBゴルフコンペ開始前 (2001年8月・多摩CC)

作した学内ニュースが流れたりするようにもなりました。昨年は大学生を対象とした放送コンテストにおいても数々の優秀な成績を修め、メディア系サークルとしての知名度は関東内でも指折りと呼ばれるまでになりました。十二月に行われた、我々現役の普段の活動の発表の場である冬の番組発表会には資金面で御協力いただきとともに、数多くのOBの方に御来場いただき、現役としては何よりの励みになりました。

近年は、現役とOB会との関わり合いも徐々に強くなり、昨年は前委員長の山口(51期)と前副委員長(52期)は何度か幹事会にも出席させていただきました。昨年七月に行われた「水上虎馬雄先生を偲ぶ会」においては、前映像部長の稲川(51期)が水上先生の追悼ビデオを制作し、その後八月に行われたOB会のゴルフコンペにも現役五名が参加し、一緒にラウンドした方々の足を引っ張りつつも楽しませていただきました。

また、一昨年は中央大学駿河台記念館にてテレビ朝日編成部長である早河洋さん(14期)に現在のマスコミを取り巻く状況について講演していただきました。そして、昨年はOB会会長である藤原尚武さん(8期)に多摩キャンパスまで来ていただいて、主にマスコミへの就職に向けたセミナーを十月から二月まで、月に二回のペースで開いていたいただきました。こういった機会が持てるということは、歴史ある放送研究会の財産の一つであると思いま

す。最後に現役が行う活動の告知をさせていただきます。四月二十九日(みどりの日)に中央大学多摩キャンパスにて「二〇〇二年度春の番組発表会」を行います。発表会の内容は映像ドラマやラジオドラマ生ラジオ番組(DJ)などOBの方にも楽しんでいただけるような内容になっています。開始時間や発表会場などの詳しい情報は、後日OB会ホームページに掲載します。現役の活動の様子を、是非見に行らせて下さい。



ホワイトボード

「放研創立五十周年事業(案)」

放研は、一九五二年(昭和二十七年)七月一日に発足以来、今年で創立五十周年を迎えます。千名近い卒業生は、マスコミ界を始め、産、官、学の幅広い分野で半世紀に渡り、活躍してきました。

この活動を次の世代に引き継ぐため、以下の要領で、五十周年記念行事を計画しております。

一、日時 平成十四年八月三日(土曜日)

式典を午後一時～午後二時まで行い、引き続き懇親パーティーを午後四時頃まで予定しています。

二、会場 京王プラザホテル(東京・新宿)

三、記念企画

- ① 記念論文の募集
- ② 記念番組の作成
- ③ 保存テープの保存(デジタル化)
- ④ その他

なお、詳細のご案内は、六月頃ご通知致します。

「放研OB会「ゴルフコンパ」の案内」

一、日時 平成十四年八月二日(金曜)

二、場所 下秋間CC(群馬県)

(新宿西口から貸切バスで往復します)

三、会費 二万円程度(プレー代、往復バス代、社内パーティ代)

五十周年行事の前日になります。記念行事と合わせてのご参加をお待ちしております。

「会費納入のお願い」

第四期(平成十三年から平成十五年の三年分)の会費として、六千円(年会費二千円の三年分)を、同封の郵便振替用紙で振り込んで下さい。

「OB会ホームページの案内」

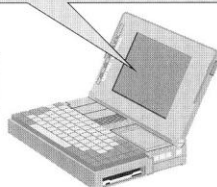
現役の協力でホームページを開設しています。OB会の強力なコミュニケーションツールとして活用して下さい。

——コンセプト「世代を越え、放研人として」——

<p>①グリーングリーン (ゴルフ専用ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回のコンパ案内 ・ これまでの記録 	<p>③リンク</p> <p>個人のホームページ、ゴルフ場等</p>
<p>②Photo</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント ・ 思い出の写真 ・ 現役の写真 	<p>④50周年特集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What's New ・ 会場案内 ・ プログラム ・ 50周年に向けてのOB会長挨拶 ・ 現役からのメッセージ

●OB会ホームページ

<http://members.tripod.co.jp/houkenob/>



編集後記

「マイトーク7号」をやっと皆様のお手許にお届けすることができました。

この間、二年間も空白ができてしまったことは、幹事の不手際と心からお詫び申し上げます。

今年は、放研創立五十周年という大きな節目の年になります。この時期にOB会の運営の任にあたる幸せ感と責任感が錯綜しています。

現役と一緒に五十周年事業の企画を練っています。百周年のときに、五十周年事業企画が少しはヒカルものになりたいと考えています。(砂)



後列左から佐立、根岸、若月、河合の皆さん 前列左から山本、大前、飯島、当山の皆さん(昭和34年・都電大久保車庫前で)

セピアのアルバム

9期の上野哲司さんから送られてきました。9期から11期の懐かしい顔がのぞいています。